



Yoko Hotta

Inside Outside

vol.9.10

Sep/Oct.2016

Inside Outside 9・10月号 お待たせしました！！

今月号はタイトル通り、わたしがなぜ写真を仕事に選んだのか・・・をお話ししようと思います。
みなさまに少しでもわたしの事を知って頂けたらと思います。

わたしは、今(photographer)の仕事について13年になります。
経歴は、いたってすごいわけではありません。

わたしの中学・高校生の頃は、使い捨てカメラ『写るんです』を学校に持って行って友達と写真を撮るというのが
すごく流行っていました！
その頃、世間では、フォトグラファーの世界(男性が主の仕事)に若手女性フォトグラファーが世に出てきた頃でした。
わたしもたくさん写真を友達と残しました。
それが、ただただ楽しくて、写真を撮っては現像し、写真を撮っては現像し・・・の毎日でした！
セピアやモノクロの使い捨てカメラも当時はあったんですよ！！笑
写真が出来上がるのが楽しみで仕方なくて、仕上がった写真はわたしや友達の宝物になって、そんな『写真を撮ること』
に興味をわきました。

きっかけはそんな単純な事でした。

でも自分の周りを見渡しても、誰一人写真を仕事にしている人なんていなかったの、学校の担任の先生に
写真の仕事に就きたい場合はどうすればいいんですか！？なんて相談したような気がします。
調べたら当時は大阪に二つ写真の学校(大学←写真の専攻がある所と専門学校)があって、結果わたしは専門学校に
行くことにしました。

高校卒業後、大阪にある写真の専門学校(夜間部)に一年ほど行って、その後は京都でブライダルを専門とする会社に
5年程勤めていました。

写真の専門学校に行っていた頃は、朝から午後まで某プリントショップでアルバイトをしていました。
専門学校の頃は四六時中、写真のことばかり考えていられたので日中のアルバイト、夜は学校ととっても楽しかったです。
夜間部は学生の年齢層も幅広かったので、日中いろんな仕事をしている方と関わることが出来ました。
アルバイト先のお客様にフリーフォトグラファーのお客様がいらっしゃって、『カメラマンの仕事を探してるんですが、
どこかいいところご存じないですか？』とかよく話してた気がします。そしてその方に、
京都のカメラマン会社を紹介してもらいました。19歳の頃でした。

すぐに連絡し面接となりました。特に技術も無かったのですが、『やる気』はあったので採用してもらえました！？
何はともあれようやくカメラマンの仕事に就けました！！ 20歳でカメラマン人生スタートしました。
でも、それから5年間は過酷な日々でした。アルバイトとカメラマンを掛け持ちし、何とかギリギリの給料は平均12万くらい
でしたかね。そのくらいでアシスタントの時期を過ごしました。
ブライダルの現場は、とても厳しかったです。現場では失礼があってはいけないので、先輩や会場のスタッフの方々にも
お世話になり、過酷なアシスタントの日々を抜け、メインのカメラマンに成長しました。

ブライダルカメラマンは、撮影の日はお昼も食べる間も無く、本当に体力が必要とされる仕事でした。
撮影後も、たくさん仕事はあります。データ処理やアルバム制作など夜も遅くまで仕事の毎日でした。
そんな中、自分のこれからのフォトグラファー人生、どんな風に仕事を続けていきたいのか。。。
見つめ直すきっかけがありました。わたしの24歳が終わろうとしていました。

続く・・・



profile

photographer
Yoko Hotta

エッセンシャルシンキング株式会社

□ 写真事務所 MPM □

HP : <http://www.mpm-photo.jp/>

Mail : info@mpm-photo.jp

Blog : <http://www.mpm-photo.jp/blog/>

Instagram : [kyotostudio \(kids & family\)](#)

[kyotostudio_maternity \(maternity\)](#)

[kyotostudio_wedding \(wedding\)](#)

Copyright (C) 2016 MPM All Rights Reserved.